

Q

のどにイガイガした違和感。
膿栓を取ったものの
まだ違和感が残る

A

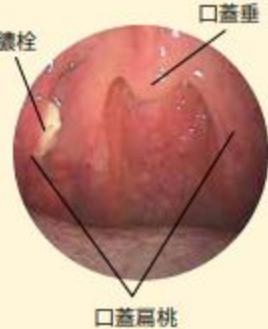
咽頭異常感の原因になる疾患は多数ある。
陰窓の洗浄と吸引をくり返し症状が改善するか見極めを

50歳、男性。3カ月前、のど奥にイガイガするような違和感があり耳鼻科を受診すると膿栓があり、その場で除去してもらいました。最近、口臭が気になつていて、この膿栓が原因だったようでした。しかし、まだのどに違和感が残っています。今後の対処法を教えてください。

(滋賀県 一)

扁桃の膿栓の症例

口蓋扁桃にたまつた膿栓の症例。膿栓自分で取り除こうとすると口蓋扁桃(扁桃腺)を傷つけてしまうリスクがあるので、安全な洗浄方法で医師に処理してもらうことが大切。



のどの奥の左右脇にある口蓋扁桃(扁桃腺)は、異物や細菌、ウイルスなどの侵入を防ぐ役割があります。口蓋扁桃の表面には陰窓あるいは膿窓と呼ばれる大小さまざまの穴が開いています。そのくぼみの中には古くなつた扁桃の細胞や食べ物のカスなどがかたまりとなつてたまります。この貯留物が「扁桃の膿栓」です。膿栓には嫌気性菌などの雑菌が繁殖して、独特の悪

臭がすることから「臭い玉」ともいわれます。膿栓そのものは扁桃の陰窓にたまる汚れであり、とくに重大な病気を引きおこすものではありません。しかし、のどの異物感や口臭の原因になり、日常生活に支障が出る場合には、治療の対象となります。

耳鼻咽喉科外来では膿栓の治療として、専用の器具を用いて陰窓を洗浄し、陰窓の奥に詰まつた膿栓を吸引除去するといった処置が行われます。そのような耳鼻咽喉科的処置は保険診療上、「扁桃処置」で算定されます。一回の扁桃処置で扁桃に多数存在する陰窓からすべての膿栓が完全に除去できるわけではありません。

また、咽頭異常感の原因となる疾患には、上咽頭炎、副鼻腔炎、慢性扁桃炎、慢性咽頭炎、下咽頭がんなどのほか、多数の疾患があります。扁桃の膿

栓が咽頭異物感や口臭の原因になつているのか、まず扁桃陰窓の洗浄と吸引を何度かくり返し行って、自覚症状が改善するかを見極めることが大切です。

扁桃処置で症状の改善はあるものの、なお症状が残つている場合には、扁桃処置をくり返し行う必要があります。扁桃組織が存在する限り、その陰窓に膿栓が付着することは避けられません。膿栓がまつたくできないようにするには、口蓋扁桃摘出手術で扁桃を完全にくつしてしまつしかありません。

外来手術として、ラジオ波で扁桃の縮小と膿栓を減少させる治療法もありますが、扁桃がなくなるわけではないので根本治療ではありません。扁桃処置や手術の必要性に関しては、耳鼻咽喉科の医師とよく相談してください。



自由が丘耳鼻咽喉科
笠井クリニック(東京都)院長
笠井創